

**サム・ナン米元上院議員**  
**ビデオメッセージ 和文仮訳**

岸田総理、「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議の場で御挨拶できることを光栄に思います。この長崎での会合は、世界的な利害関係を想起させる厳粛かつ説得力のあるものです。78年間、賢明なリーダーシップ、幸運、そして神の摂理が重なり、世界は第3の核兵器使用を回避することができました。しかし、この記録は今日、いくつかの理由で危機にさらされています。残念ながら、我々は新たな核軍拡競争の危険の中にあります。この競争には、世界の確立された核兵器国と、ロシアによる残酷なウクライナ侵略のような地域紛争の激化を自国が核戦力を獲得する理由とみなす可能性のある他の国家が関与する可能性があります。人工知能やサイバーなどの技術は、まだ解明しきれていない形で核リスクと関係しており、こうした技術の多くには明確なルールやガイドラインがありません。

核リスクを低減するために過去60年にわたって慎重に交渉されてきた主要な軍備管理協定が打ち切れ、核拡散防止条約（NPT）はますます大きなストレスに晒されています。だからこそ、NPTに基づく前進の基盤を再構築し、ジョージ・シュルツ、ビル・ペリー、ヘンリー・キッシンジャーが2007年に呼びかけたビジョン、すなわち「核兵器のない世界」に向かって前進しなければならないのです。ウォール・ストリート・ジャーナル紙の論説で、私たちは、各国がこのビジョンにコミットすると同時に、それを達成するために実際のステップに取り組むことの重要性を強調しています。そして私たちは、大胆なビジョンがなければ、その行動は公正なものとも緊急なものとも認識されない、と述べました。行動が伴わなければ、ビジョンは現実的なものとも、可能なものとも認識されません。これは今日においても課題となっています。世界の指導者は、軍事的紛争のリスクを減少させ、新たな核軍拡競争を防ぐために意味のある対話と外交を再構築しなければなりません。政治的關係が緊迫しており、核の危険性が高まっている今、核リスクの管理はより一層重要となっています。

既存の核兵器国間の緊張が高まり、新たな核保有への野心が生まれる可能性があるため、地域の対立や紛争を解決する努力を倍加させなければなりません。各核兵器国は、事故、技術的な不具合、誤解、あるいは手違いによる核兵器使用のリスクを低減させるため、独自の手段を講じることができます。米国政府は現在、核システムと政策が偶発的又は意図しない核の使用に対してできる限り安全であることを確認するためのフェイルセーフ（安全装置システム）のレビューを行っています。全ての核保有国も、このような安全装置に対する内部レビューを行うことができますし、また行うべきです。手違いが原因で核の大惨事が引き起こされないようにすることは、全ての人にとって共同の利益です。核軍縮と核物質の安全かつ確実な管理に関して、核兵器国と非核兵器国が建設的に関与することも、国際平和を維持し、壊滅的な核テロを防止するために不可欠です。

世界的な不拡散体制を維持し、機微な核物質が悪意ある者やテロリストの手に渡るのを防ぐことは各国にとっての利益であり、各国はその役割を担っています。兵器利用可能な物質、高濃縮ウラン、プルトニウムの世界的な備蓄を最小限に抑え、廃棄することも、壊滅的なテロのリスクを減少させる上で不可欠です。検証が最優先事項です。核兵器を持つ国も持たない国も、核軍縮を検証する能力の開発に貢献することができます。核軍縮検証のための国際パートナーシップ（IPNDV）は、この重要な取組みに焦点を当てています。このパートナーシップには、日本を含む30か国以上が参加し、核弾頭の完全な廃絶に伴う検証の課題に対処するための手続きや技術を開発しています。検証への信頼は、核兵器の脅威を減少させ、最終的に廃絶するために必要不可欠です。核リスクの低減は、かつてないほどの急務となっています。世界は、協力と破滅の競争の最中にあります。岸田総理、日本の皆様、そして賢人会議の皆様ののおかげで、協力が一層迅速に進展することに感謝いたします。ありがとうございました。